

今年4月に27歳になられた方から今年高校1年生になられたすべての女性の皆様へ
(1997/4/2 生まれ～2008/4/1 生まれ)

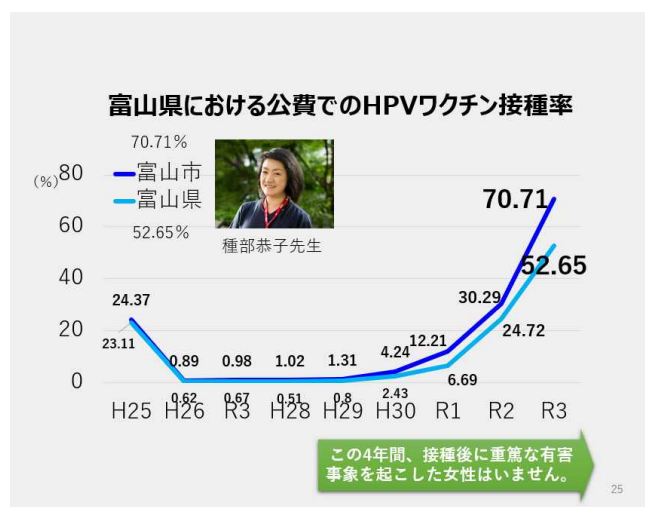
子宮頸がんワクチン **未接種**なら、今年度一杯(2025/3/31 まで)が、ラストチャンスです。

2013年に定期接種が始まりましたが、接種後の有害事象報告から、国が一時、積極的勧奨を中断しておりました。

当時の未接種者を救済するため、国が、2022年から3年間公費接種を勧めて参りました。

子宮頸がんは、日本国内では、毎年約一万人がかかり、約3,000人が死亡する病気です。
20代～30代で、発症することが多く、母親になる世代がかかり易いことから、マザー・キラーとも呼ばれています。

ワクチン接種と20歳以後、2年に一回のがん検診で、ほとんどの子宮頸がんが救命できると考えられており、ワクチン接種率および検診受診率の高いオーストラリアでは、2028年に子宮頸がんを制圧できると国として宣言しております。



産婦人科医で富山県議会議員を務める種部恭子先生は、地道な普及活動により県全体で5割、富山市内で7割以上の接種率を達成していますが、当院でも2020年34名、21年113名、22年134名、24年142名に接種しています。ワクチンの意義を理解していただいた結果、接種後の重篤な有害事象は認めておりません。

該当する年齢の方が、周囲にいらっしゃる場合、適切な声掛けをしてください。

若い女性の命、次世代の命を救うために、ワクチン接種、がん検診受診を促しましょう。

2024/4/30 (火) おざわ小児科医院 院長 小澤武史